

## 令和5年度 シラバス

教科	国語	科目	国語表現	学年 学科 類型	2年 商業科 I型
単位数	2	教科書	国語表現(大修館)		
副教材等	国語表現 基礎演習ノート(大修館)				

<b>学習の目標</b>	<p>1 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにしましょう。</p> <p>2 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、実社会における他者との多様な関わりの中で伝えあう力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしましょう。</p> <p>3 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養いましょう。</p>
<b>学習の方法</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要な情報を収集し活用しながら他者との対話を通して、深い理解を目指します。</li> <li>・教材の解釈や報告、発表などの言語活動を積極的に行うことを通して、自己の思いや考えを深めたり広げたりします。</li> <li>・言葉を通して他者や社会に関わり、読書に親しむことで自己の向上を目指します。</li> </ul>

学期	単 元	学習活動とねらい
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉と出会う</li> <li>・伝える、伝え合う</li> <li>・小論文・レポート入門</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時と場合に応じた言葉と表記を使い分ける活動を通して、実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けます。</li> <li>・絵や写真を見て書く活動を通して、実社会における他者との関わりの中で伝え合う力を高めます。</li> <li>・小論文やレポートを書く活動を通して、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにします。</li> </ul>
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己PRと面接</li> <li>・メディアを駆使する</li> <li>・読書の広場</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・効果的な自己PRを考え、面接練習を通して、実社会における他者との関わりの中で伝え合う力を高めます。</li> <li>・様々なメディアと情報に触れ、活用方法を考える活動を通して、論理的に考える力や深く共感する力を伸ばします。</li> <li>・ビブリオバトルを通して、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養います。</li> </ul>
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会話・議論・発表</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼンテーションやスピーチなどを通して、全体の構造を意識して説明するとともに問の大切さを学びます。</li> <li>・データを読み、分析する活動を通して、必要な国語の知識や技能を身に付けます。</li> </ul>

### 評価の観点と方法

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
<b>評価規準</b>	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めようとしている。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」の2領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝えあう力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。
<b>評価方法</b>	定期考査、課題、レポート、ノート、小テスト、発表、パフォーマンス評価、ポートフォリオ評価	定期考査、課題、レポート、ノート、小テスト、発表、パフォーマンス評価、ポートフォリオ評価	課題、レポート、ノート、小テスト、発表、パフォーマンス評価、ポートフォリオ評価

(備考) 1 1,2学期の定期考査は、中間・期末に行う。3学期は、学年末考査のみとする。  
 2 中間考査の評価は、考査の素点とする。

## 令和5年度 シラバス

教科	地理歴史	科目	歴史総合	学年 学科 類型	2年 商業科 I型
単位数	2	教科書	高等学校 歴史総合 (第一学習社)		
副教材等	明解歴史総合図説シンフォニア 初訂版(帝国書院)、学習事項の整理と問題 歴史総合ノート(第一学習社)				

学習の目標	1 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を相互的な視野から理解します。 2 現代の諸課題を歴史的観点から考察することによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養います。
学習の方法	・中学時代には学習していない項目が多数ありますので、授業に集中することが大切です。 ・家庭学習では復習に重点を置きましょう。教科書とともに、授業中に指示された資料集の箇所は、家庭で熟読して理解を深めていくように心掛けましょう。

学期	単 元	学習活動とねらい
1 学期	第1部 歴史の扉 第2部 近現代の世界と日本 第1章 近代化と私たち 第1節 18世紀のアジアの繁栄	・私たちの生活や身近な地域などに見られる諸事象をもとに、それらが日本や日本周辺の地域及び世界の歴史とつながっていることを理解します。 ・18世紀のアジアや日本における生産と流通、アジア諸国と欧米諸国の貿易などをもとに、18世紀のアジアの経済と社会を理解します。
	第2節 産業革命と市民革命 第3節 イギリスの繁栄と国民国家の拡大 第4節 アジア諸国の変貌と西アジア 第5節 帝国主義の発展	・18世紀後半以降の欧米の市民革命産業革命、国民統合の動向、日本の明治維新や大日本帝国憲法の制定などをもとに、国民国家の形成を理解します。 ・列強の進出と植民地の形成、日清・日露戦争などをもとに、列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解します。
2 学期	第2章 国際秩序の変化や大衆化と私たち 第1節 第一次世界大戦と大衆社会 第2節 経済危機と第二次世界大戦	・第一次世界大戦の展開、国際連盟の成立などをもとに、総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制を理解します。 ・世界恐慌、ファシズムの伸張、日本の対外政策、第二次世界大戦の展開などをもとに、国際協調体制の動揺を理解します。
	第3節 第二次世界大戦の戦後処理と新たな国際秩序の形成 第3章 グローバル化と私たち 第1節 冷戦と脱植民地化・第三世界の台頭	・国際連合と国際経済体制、冷戦の始まりなどをもとに、第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰を理解します。 ・冷戦と国際関係、人と資本の移動、食料と人口、エネルギーと地球環境などに関する資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付けます。
3 学期	第2節 国際秩序の変容と21世紀の世界 現代的な諸課題の形成と展望	・石油危機、アジア諸地域の経済発展、市場開放と経済の自由化などをもとに、市場経済の変容と課題を理解します。 ・持続可能な社会の実現を視野に入れ、自ら主題を設定し、歴史的な経緯を踏まえて現実的な課題を理解します。

### 評価の観点と方法

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価規準	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解し、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を、解決を視野に入れて構想したりすることができ、また、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりすることができる。	近現代の歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度が身に付いている。また、日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについて自覚が深まっている。
評価方法	・定期考査 ・パフォーマンス評価 ・課題	・定期考査 ・行動の観察 ・レポート	・出席状況 ・行動の観察 ・ポートフォリオ評価

- (備考) 1 1,2学期の定期考査は、中間・期末に行う。3学期は、学年末考査のみとする。  
 2 中間考査の評価は、考査の素点とする。

## 令和5年度 シラバス

教科	数 学	科目	数学A	学年 学科 類型	2年 商業科 I型
単位数	2	教科書	新編 数学A(啓林館)		
副教材等	ネオパル数学A 新課程 (第一学習社)				

学習の目標	数学の基本的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学と人間とのかかわりや、社会生活において数学が果たしている役割について理解し、数学に対する興味・関心を高めるとともに、数学を活用していく能力を身に付けます。
学習の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書と並行して、問題集「ネオパル」で演習を行います。予習・復習を徹底するとともに、疑問点の解消に向けて努力して下さい。</li> <li>・学習課題は必ず行い、提出物は期限までに必ず提出して下さい。</li> </ul>

学期	単 元	学習活動とねらい
1 学期	第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数 第2節 順列・組合せ 第3節 確率とその基本性質 第4節 いろいろな確率	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ある事柄が起こる場合の数を数える方法を学習します。</li> <li>・順列や組合せの意味について理解し、それらの総数を求める方法を学習します。</li> <li>・確率の意味を確認し、事象の確率を求める方法を学習します。</li> <li>・複数の試行を行ったときの確率を求める方法を学習します。</li> </ul>
2 学期	第2章 図形の性質 第1節 三角形の性質 第2節 円の性質 第3節 作図 第4節 空間図形	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三角形、四角形に関する基本的な性質について学習します。</li> <li>・円に関する基本的な性質について学習します。</li> <li>・三角形や円の性質を用いた作図について学習します。</li> <li>・直線や平面の位置関係や、多面体に関する基本的な性質について学習します。</li> </ul>
3 学期	第3章 数学と人間の生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数量や図形に関する事柄と人間の活動とのかかわりについて学習します。</li> <li>・数学と文化とのかかわりについて学習します。</li> </ul>

### 評価の観点と方法

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価 規 準	図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解しているとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見だし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力を身に付けている。	数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしたり、問題解決の過程を振り返って考察を深め、評価・改善したりしようとしている。
評価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査、小テスト</li> <li>・発表</li> <li>・課題プリント</li> <li>・ノート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査、小テスト</li> <li>・発表</li> <li>・課題プリント</li> <li>・ノート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行動の観察</li> <li>・発表</li> <li>・課題プリント</li> <li>・ノート</li> </ul>

- (備考) 1 1,2学期の定期考査は、中間・期末に行う。3学期は、学年末考査のみとする。  
 2 中間考査の評価は、考査の素点とする。

## 令和5年度 シラバス

教科	理科	科目	化学基礎	学年 学科 類型	2年 商業科 I型
単位数	2	教科書	新編化学基礎(東京書籍)		
副教材等					

学習の目標	1 日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けます。 2 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養います。 3 物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養います。
学習の方法	・授業では、解説をよく聞き、板書等重要なことはノートに整理して記録してください。 ・観察・実験を行う場合は、「何故そうなるのか」を考えながら取り組むことが大切です。 ・小テストやプリント課題があります。学習した内容を振り返りましょう。

学期	単元	学習活動とねらい
1 学期	1編 化学と人間生活 1章 化学とは何か 2章 物質の成分と構成元素  2編 物質の構成 1章 原子の構成と元素の周期表 2章 化学結合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な物質を整理・分類し、共通した要素や個々の相違点を調べることで、物質の成り立ちを学びます。</li> <li>・物質を理解する基礎として、物質を構成する基礎的な粒子である原子について学びます。</li> <li>・中学での内容をさらに深め、粒子がどのように結合しているのかなど、物質の性質と関連についても学びます。</li> </ul>
2 学期	3編 物質の変化 1章 物質と化学反応式 2章 酸と塩基	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原子・分子・イオンなどの質量や気体の体積と、個数との関係を学びます。また、物質の考え方や化学反応式の表し方を身に付けます。</li> <li>・酸と塩基の定義を理解します。また、酸性・塩基性の強さの表し方を学びます。</li> <li>・中和反応の仕組みを理解します。</li> </ul>
3 学期	3編 物質の変化 3章 酸化還元反応 終章 化学が拓く世界	<ul style="list-style-type: none"> <li>・酸化還元反応の定義を理解します。また、酸化剤や還元剤のはたらきや化学変化を化学反応式で表せるようにします。</li> <li>・金属によってイオンのなりやすさが異なることを理解します。また、酸化還元反応を利用して電池ができることを学びます。</li> </ul>

### 評価の観点と方法

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価規準	日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	観察、実験などを行い、科学的に探究している。	物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。
評価方法	定期考査、授業ノート、行動の観察、観察・実験の観察(パフォーマンス評価)、小テスト、実験レポート	定期考査、授業ノート、行動の観察、観察・実験の観察(パフォーマンス評価)、小テスト、実験レポート	定期考査、授業ノート、行動の観察、観察・実験の観察(パフォーマンス評価)、小テスト、実験レポート

(備考) 1 1、2学期の定期考査は、中間・期末に行う。3学期は、学年末考査のみとする。  
 2 中間考査の評価は、考査の素点とする。

## 令和5年度 シラバス

教科	保健体育	科目	体育	学年 学科 類型	2年 商業科 I型
単位数	2	教科書	現代高等保健体育(大修館)		
副教材等	現代高等保健体育ノート				

学習の目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けます。</li> <li>2 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養います。</li> <li>3 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養います。</li> </ol>
学習の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体づくり運動、球技・武道(選択)、ダンス・陸上競技(選択)を通して、自分で課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習活動を通して、心と体を一体としてとらえ生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育みます。</li> <li>・体育理論では、スポーツの文化的特性や現代スポーツの発展について学びます。</li> </ul>

学期	単 元	学習活動とねらい
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体づくり運動</li> <li>・選択1 (球技【ソフトボール/バレーボール/テニス】・武道)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体ほぐしの運動を通して体を動かすことの楽しさや心地よさを味わい、心と体が互いに影響し変化することを学びます。</li> <li>・球技では、各選択種目で特有の技能の基礎・基本を習得し、仲間と連携する楽しさを味わい、次の学年で高いレベルのゲームができるようにします。</li> <li>・武道では、相手を尊重するとともに、礼法などの伝統的な行動を大切にし、得意技を用いた攻防が展開できるようにします。</li> </ul>
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体づくり運動</li> <li>・選択2 (球技【バスケットボール/サッカー/テニス】・武道)</li> <li>・体育理論</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実生活に生かす運動の計画では、各自のねらいに応じて、健康の保持増進や調和のとれた体力の向上を図るための運動の計画を立てて取り組むことを学びます。</li> <li>・球技では、各選択種目で特有の技能の基礎・基本を習得し、仲間と連携する楽しさを味わい、次の学年で高いレベルのゲームができるようにします。</li> <li>・武道では、相手を尊重するとともに、礼法などの伝統的な行動を大切にし、得意技を用いた攻防が展開できるようにします。</li> <li>・技能と体力の関係や練習のしかたについて学習します。</li> </ul>
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・陸上競技(長距離走)</li> <li>・選択3 (球技【バスケットボール/サッカー/テニス】・武道)</li> <li>・体育理論</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長距離走では、自分と向き合い努力すること、粘り強く相手と競り合う強い心を養うことを目標とします。また、ペース配分をしたり、ペースの変化に対応したりするなど主体的に取り組むことができるようになります。</li> <li>・運動の合理的な動きを理解し、必要な体力をトレーニングによって向上させることで、運動やスポーツを生涯にわたって継続していくための基礎を学びます。</li> </ul>

### 評価の観点と方法

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価規準	<p>運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けている。</p>	<p>生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。</p>	<p>生涯にわたって継続して運動に親しむために、運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするとともに、健康・安全を確保している。</p>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パフォーマンス評価</li> <li>・小テスト</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題レポート</li> <li>・小テスト</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席状況</li> <li>・行動の観察</li> </ul>

## 令和5年度 シラバス

教科	保健体育	科目	保健	学年 学科 類型	2年 商業科 I型
単位数	1	教科書	現代高等保健体育(大修館)		
副教材等	現代高等保健体育ノート				

学習の目標	1 個人および社会生活における健康・安全について理解を深めます。 2 生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を身に付けます。
学習の方法	現代社会は、生活習慣病や薬物、心の問題など健康にかかわる問題が少なくありません。また、健康の とらえ方や健康のために望まれることも変化してきました。そこで現代の健康問題や新しい健康のあり方 について、課題学習などを取り入れながら主体的に学習します。

学期	単 元	学習活動とねらい
1 学期	III 生涯を通じる健康 01 ライフステージと健康 02 思春期と健康 03 性意識と性行動の選択 04 妊娠・出産と健康 05 避妊法と人工妊娠中絶 06 結婚と健康 07 中高年期と健康	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ライフステージと健康の関連について学習します</li> <li>・思春期における体の変化や心の発達にかかわって起こる問題について学習します。</li> <li>・性意識の男女差について学習します。</li> <li>・妊娠・出産の過程における健康課題や妊娠・出産期に活用できる母子保健サービスについて学習します。</li> <li>・家族計画の意義と適切な避妊法や人工妊娠中絶が心身に及ぼす影響について学習します。</li> <li>・心身の発達と結婚生活の関係や結婚生活を健康的に送るために必要な考え方や行動を学習します。</li> <li>・加齢にともなう心身の変化や高齢社会に必要な社会的な取り組みについて学習します。</li> </ul>
2 学期	08 働くことと健康 09 労働災害と健康 10 健康的な職業生活  IV 健康を支える環境づくり 01 大気汚染と健康 02 水質汚濁、土壌汚染と健康 03 環境と健康にかかわる対策 04 ごみ処理と上下水道の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・働くことの意義と健康とのかかわりや働き方や働く人の健康問題の変化について学習します。</li> <li>・労働災害の種類とその原因や労働災害を防止するために必要なことについて学習します。</li> <li>・職場がおこなう健康に関する取り組みや余暇を積極的にとることの意義について学習します。</li> <li>・大気汚染の原因と健康への影響や大気にかかわる地球規模の健康問題について学習します。</li> <li>・水質汚濁、土壌汚染の原因や複合的な環境汚染の発生のしくみについて学習します。</li> <li>・環境汚染による健康被害を防ぐ方法や産業廃棄物の処理について学習します。</li> <li>・ごみの処理の現状や上下水道のしくみと健康にかかわる課題について学習します。</li> </ul>
3 学期	05 食品の安全性 06 職員衛生にかかわる活動 07 保健サービスとその活用 08 医療サービスとその活用 09 医薬品の制度とその活用 10 様々な保健活動や社会的対策 11 健康に関する環境づくりと社会参加	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食品の安全性を確保するための行政や製造者の役割や食品の安全性を確保するための個人の役割について学習します。</li> <li>・保健行政の役割や保健サービスの活用の例について学習します。</li> <li>・わが国における医療保険のしくみについて学習します。</li> <li>・さまざまな医療機関の役割について学習します。</li> <li>・医薬品の正しい使用法や医薬品の安全性を守る取り組みについて学習します。</li> <li>・国際機関・民間機関などの保健活動や行政機関による社会的対策について学習します。</li> <li>・健康の保持増進のための環境づくりや環境づくりへの主体的な参加が自他の健康づくりにつながることを学習します。</li> </ul>

### 評価の観点と方法

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価規準	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めているとともに、技能を身に付けている。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断しているとともに、目的や状況に応じて他者に伝えている。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりw目指し、明るく豊かで活力ある生活を営むための学習に主体的に取り組もうとしている。
評価方法	・定期考査、小テスト ・パフォーマンス評価	・定期考査、小テスト ・レポート ・パフォーマンス評価	・ノート ・出席状況 ・行動の観察

(備考) 1,2学期の定期考査は、期末に行う。3学期は、学年末考査のみとする。

## 令和5年度 シラバス

教科	外国語	科目	英語コミュニケーションⅡ	学年 学科 類型	2年 商業科 I型
単位数	3	教科書	BLUE MARBLE English Communication II (数研出版)		
副教材等	英単語ターゲット1200(旺文社)				

学習の目標	<p>1 英語を理解し英語で表現しようとする、コミュニケーションへの積極的な態度を身に付けます。</p> <p>2 教科書等の英語を読んだり聞いたりしたことに対する自分の感想や意見を、適切な英文で表現できる理解力と表現力を習得します。</p> <p>3 基本的な構文や文法、語彙を習得します。CEFRのA2以上の取得を目標とします。</p>
学習の方法	<p>・授業は、本文をノートに写し、教科書に出てくる新出単語の意味を調べてノートに書いておくことが前提になります。辞書を使いながら、できる限り本文を日本語に直してみましよう。授業中の言語活動に参加できるように、家での準備を自分の力で必ずやる習慣をつけましよう。</p> <p>・自分の意見を表現するときに、分からないことがあれば、辞書を利用して、自分で調べてみるようにしましよう。</p>

学期	単 元	学習活動とねらい
1 学期	Lesson 1 Leadership in Modern Times	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会において求められるリーダーシップについて考えます。</li> <li>・強調構文/倒置/省略/無生物主語構文について理解します。</li> </ul>
	Lesson 2 The Diversity of Traditional Houses	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の伝統家屋の特徴と、それらが現在果たす役割について考えます。</li> <li>・未来完了形について理解します。</li> </ul>
2 学期	Lesson 3 Improving Society with Avatar Robots	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会の「孤独」を解消するため、ある男性が生み出した「分身ロボット」について学びます。</li> <li>・助動詞+have+過去分詞/進行形の受動態/完了形の受動態について理解します。</li> </ul>
	Lesson 4 Approaches to Food Waste	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食品ロスの現状と、私たちにできる身近な取組について考えます。</li> <li>・完了不定詞/完了動名詞/be to do/独立不定詞について理解します。</li> </ul>
	Lesson 5 Animals as Indispensable Partners	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私たちのよりよい暮らしと社会をサポートしてくれる動物たちについて学びます。</li> <li>・分詞が補語になる用法/分詞構文について理解します。</li> </ul>
3 学期	Lesson 6 An Irish Poet on a Mission	<ul style="list-style-type: none"> <li>・翻訳を通して日本文学の美しさを世界に広めるアイルランド出身の詩人について学びます。</li> <li>・先行詞を含む関係副詞/複合関係詞について理解します</li> </ul>
	Lesson 7 Be Free from Gender Bias	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近にひそむ男性/女性への偏見と、それをなくそうとする取組について考えます。</li> <li>・比較の慣用表現について理解します。</li> </ul>

### 評価の観点と方法

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価 規 準	<p>外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。</p>	<p>コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができている。</p>	<p>外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。</p>
評価 方法	<p>定期考査、パフォーマンステスト、小テスト</p>	<p>定期考査、パフォーマンステスト、レポート課題</p>	<p>言語活動への参加状況、パフォーマンステスト</p>

- (備考) 1 1,2学期の定期考査は、中間・期末に行う。3学期は、学年末考査のみとする。  
 2 中間考査の評価は、考査の素点とする。



## 令和5年度 シラバス

教科	家 庭	科目	家庭総合	学年 学科 類型	2年 商業科 I型
単位数	2	教科書	高等学校 家庭総合 持続可能な未来をつくる（第一学習社）		
副教材等	家庭科ノート・調理実習ノート基礎編（愛媛県家庭科教育研究会）				

学習の目標	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育てることを目標とします。
学習の方法	家庭科ノート、調理実習ノート、資料等を用いて授業を行います。実験・実習を活用し、実際の生活で実践できるように、生活との関わりを意識しながら進めていきます。講義や実習・グループ活動等意欲的に取り組み、授業内容を参考にしながら、生活の中での問題点を発見し、自分で解決できる能力を身に付けていきましょう。

学 期	単 元	学習活動とねらい
1 学 期	家庭科を学ぶみなさんへ 1章 これからの生き方と家族  3章 充実した生涯へ  4章 ともに生きる  ホームプロジェクト	<p>家族・家庭の機能と家族関係、家族・家庭生活を取り巻く社会環境の変化や課題、家族・家庭と社会との関わりについて理解し、考察したことを論理的に表現できるようにします。</p> <p>高齢者の心身の特徴、高齢者を取り巻く社会環境、高齢者の尊厳と自立生活の支援や介護について理解します。 高齢者の自立生活を支えるために、家族や地域及び社会の果たす役割について問題を見いだし、考察したことを論理的に表現できるようにします。 生涯を通して家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援について理解します。 自己の家庭生活について問題を設定し、解決策を構築し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現します。</p>
	2 学 期	6章 衣生活をつくる
3 学 期	8章 経済生活をつくる	<p>消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう消費生活の現状と課題、消費行動における意思決定や契約の重要性、消費者保護の仕組みについて理解する。自立した消費者として、生活情報を適切に活用できるようにします。 生活と環境との関わりや持続可能な消費について理解するとともに、持続可能な社会へ参画することに意義について理解を深め、持続可能な社会を目指して主体的に行動できるようにしていきます。</p>

### 評価の観点と方法

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価規準	生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて科学的に理解しているとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身に付けている。	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見い出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。
評価方法	定期考査、小テスト、ノート、ワークシート、発表、実習	定期考査、ノート、ワークシート、課題、発表、実習	ノート、行動観察、課題、出席状況、発表、実習

（備考） 1 1,2学期の定期考査は、期末に行う。3学期は、学年末考査のみとする。



## 令和5年度 シラバス

教科	商 業	科 目	マーケティング	学年 学科 類型	2年 商業科 I 型
単位数	3	教科書	マーケティング (実教出版)		
副教材等	マーケティング問題集 (実教出版)				

学習の目標	<p>1 商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことを通じて、ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展になう職業人として必要な資質・能力を育成すして、マーケティングに関する体系的な知識と技術を習得する。</p> <p>2 マーケティングに関連する職業への認識を深め、進路選択の幅を広げる中で、マーケティング活動を計画的、合</p>
学習の方法	<p>・全商業経済検定1級合格を目指し、講義をもとに、問題を解きながら理解力を深めていきます。冬休みの課題等で、模擬問題を解いて実践力を身に付けていきます。</p> <p>・現代市場に目を向け、マーケティングに関心を持ち、他の商業科目との関連性を意識しながら学習を進めてください。</p>

学 期	単 元	学 習 活 動 と ね ら い
1 学 期	第1章 マーケティングの概要	<p>・現代市場の特徴を理解し、マーケティングの考え方や手順について学習し、現代市場における消費者保護や環境問題、法令遵守、企業の社会的責任などの重要性について学習します。</p> <p>・市場調査の意味・手順、実態調査の方法、市場調査の実習などについて学習します。</p> <p>・消費者行動と購買、購買意思決定過程、製品のライフサイクルと普及について学習します。</p>
	第2章 消費者行動の理解	
	第3章 市場調査	
2 学 期	第4章 STP	<p>・STP分析を理解し、関連する技術を学習し、課題を発見して科学的な根拠に基づいてその解決方法を学習します。</p> <p>・製品政策について企業における事例と関連付けて学習します。製品政策に関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、製品政策を立案して実施し、評価・改善するように学習します。</p> <p>・価格政策について企業における事例と関連付けて理解学習します。価格政策に対する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、価格政策を立案して実施し、評価・改善を学習する。</p> <p>・チャンネル政策に関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、価格政策を立案して実施し、評価・改善を学習する。</p> <p>・販売価格の意味・種類と構成・決定要因、価格戦略の意味や卸売</p>
	第5章 製品政策	
	第6章 価格政策	
	第7章 チャンネル政策	
3 学 期	第8章 プロモーション政策	<p>・プロモーション政策について企業における事例と関連付けて学習します。プロモーション政策に関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、プロモーション政策を立案して実施し、評価・改善するように学習します。</p> <p>・マーケティングの広がりについて企業における事例と関連付けて学習します。マーケティングの広がりに関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、マーケティングの広がりについて自ら学び、主体的かつ協働的に学習します。</p>
	第9章 マーケティングのひろがり	

### 評価の観点と方法

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評 価 規 準	<p>企業における事例などの実際のマーケティングと関連付けられ、ビジネスの様々な場面で役に立つマーケティングに関する知識と技術を身に付けている。</p>	<p>マーケティングに関する情報分野に関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて顧客についての理解、市場の動向、マーケティングに関する理論、成功事例や改善を要する事例など科学的な根拠に基づいて工夫して課題を解決している。</p>	<p>マーケティングについて学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識を持ち、他者との信頼関係を構築して積極的に関わり、市場調査の実施と情報分析、製品政策、チャンネル政策、プロモーション政策の企画と実施など責任をもって取り組んでいる。</p>
評 価 方 法	<p>課題プリント、ノート、小テスト、確認テスト、ワークシート、レポート、実習日誌、議事録、定期考査</p>	<p>行動の観察、発表、小テスト、定期考査、パフォーマンス評価</p>	<p>・行動の観察、課題プリント、ノート、小テスト、模擬問題、定期考査</p>

(備考) 1 1、2学期の定期考査は、中間・期末に行う。3学期は、学年末考査のみとする。  
2 中間考査の評価は、考査の素点とする。

## 令和5年度 シラバス

教科	商 業	科目	ビジネス・マネジメント	学年 学科 類型	2年 商業科 I型
単位数	2	教科書	ビジネス・マネジメント (実教出版)		
副教材等	ビジネス・マネジメント準拠問題集(実教出版)				

学習の目標	1 ビジネスにおけるマネジメントについて実務に即して体系的、系統的に役割とそれを学ぶ意義を学習します。 2 ビジネスにおけるマネジメントに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する基礎的な知識を習得します。 3 ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスにおけるマネジメントに主体的にかつ協動的に取り組む姿勢を養います。
学習の方法	・企業における事例など実際のマネジメントと関連付けて、ビジネスの様々な場面で役に立つマネジメントに関する知識を学習します。 ・ビジネスにおけるマネジメントに関する理論、データ、成功事例や改善を要する事例など科学的な根拠に基づいて工夫解決する力を学習します。 ・マネジメントについて学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して、他者と信頼関係を構築して積極的に関わり、経営資源のマネジメントの創造と展開などに責任をもって取り組む態度を養う。

学期	単 元	学習活動とねらい
1 学期	第1章 ビジネスの創造 第2章 ビジネスの組織化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビジネスにおけるマネジメントの概要について学習します。</li> <li>・マネジメントの意義と課題について自らの考えを持ち、ビジネスの適切な展開と関連付けて学びます。</li> <li>・マネジメントについての意識と意欲を高め、組織の一員として他者と協働する力を身に付けます。</li> <li>・組織のマネジメントについて企業における事例と関連付けて理解します。</li> <li>・組織のマネジメントに関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、組織の管理と活性化の方策を考案して実施し、評価・改善について学習します。</li> <li>・組織のマネジメントについて自ら学び、組織の一員として組織の適切な管理と活性化について、他者と協働する力を身に付けます。</li> </ul>
2 学期	第3章 経営資源のマネジメント 第4章 ビジネスの変革	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経営資源のマネジメントについて企業における事例と関連付けて学びます。</li> <li>・経営資源のマネジメントに関する課題を発見し、それを踏まえ科学的な根拠に基づいて、経営資源の管理と活用の方策を考案して実施し、評価・改善について学びます。</li> <li>・経営資源のマネジメントについて自ら学び、経営資源の適切な管理と効果的な活用について、他者と協働する力を身に付けます。</li> <li>・ビジネスの創造と展開について企業における事例と関連付けて学びます。</li> <li>・ビジネスの創造と展開に関する課題を発見し、それを踏まえ科学的な根拠に基づいて、ビジネスの創造と展開に関する計画を立案して実施し、評価・改善について学びます。</li> <li>・ビジネスの創造と展開について自ら学び、プロジェクトを適切に管理し、ビジネスの創造と展開について、他者と協働する力を身に付けます。</li> </ul>
3 学期	第5章 ビジネスと社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業の秩序と責任について企業における事例と関連付けて学びます。</li> <li>・企業の秩序と責任に関する課題を発見し、それを踏まえ科学的な根拠に基づいて、企業の秩序の維持と責任を果たす方策を考案して実施し、評価・改善について学びます。</li> <li>・企業の秩序と責任について自ら学び、企業の秩序を維持し、責任を果たすことについて他者と協働する力を身に付けます。</li> </ul>

### 評価の観点と方法

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価 規 準	ビジネスにおけるマネジメントについて実務に即して体系的・系統的に理解し、ビジネスの様々な場面で役に立つマネジメントに関する知識を身に付けている。	ビジネスにおけるマネジメントと様々な知識を活用し、ビジネスにおけるマネジメントに関する課題を発見し、企業活動が社会に及ぼす影響を踏まえ、経済社会の動向やマネジメントに関する理論、データなどの科学的な根拠に基づいて工夫して、よりよく解決するように考えている。	ビジネスを適切に展開する力の向上を目指し、自らマネジメントについて学ぶ態度及び組織の一員としての役割を認識して、経営資源のマネジメントや新たなビジネスの創造と展開などに責任を持って取り組んでいる。
評価 方 法	定期考査、小テスト、課題プリント	定期考査、小テスト、課題プリント、ポートフォリオ評価	行動の観察、課題プリント、ノート、小テスト、調査発表

- (備考) 1 1、2学期の定期考査は、中間・期末に行う。3学期は、学年末考査のみとする。  
 2 中間考査の評価は、考査の素点とする。

## 令和5年度 シラバス

教科	商 業	科 目	財務会計Ⅰ	学年 学科 類型	2年 商業科Ⅰ型
単位数	3	教科書	財務会計Ⅰ（東京法令出版）		
副教材等	全商1級会計 完全段階式標準検定簿記問題集（東京法令出版）				

学習の目標	1 「簿記」の学習を基礎として、企業会計の役割や制度及び財務諸表の作成に関する基本的な知識を身に付け、財務諸表の必要性や役割について理解します。 2 財務諸表から得られる情報をビジネスの諸活動に活用する能力を身に付けます。
学習の方法	・財務諸表に関する基礎的・基本的な知識や技術を身に付けますが、その学習内容は「簿記」よりもさらに高度になるため、教科書や問題集を活用し、常に予習と復習を行うことを心掛けてください。 ・問題演習については、間違えたところを何回も復習し、疑問点や不明な点は積極的に質問して確実に解けるようにしてください。

学 期	単 元	学 習 活 動 と ね ら い
1 学 期	第Ⅰ編 財務会計の概要 第Ⅱ編 会計処理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業会計の意味や目的、財務会計の機能や企業会計制度の意味などを学習し、企業会計制度に関する理解を深めます。また、企業会計の歴史を通して、会計基準の必要性と今日的な動向を学びます。</li> <li>・資産・負債・純資産の意味と種類を明らかにしていきます。具体的には当座資産・棚卸資産・固定資産について、それぞれの意味と種類を明らかにし、負債と純資産が企業にとっての調達資金であることを学びます。</li> <li>・損益計算の意味を明らかにし、損益計算の基準や処理方法を習得します。また、販売形態や営業種目などの相違による収益認識基準を明らかにし、それぞれの基準による処理方法を考えます。</li> </ul>
2 学 期	第Ⅲ編 財務諸表の作成 第Ⅳ編 財務諸表分析の基礎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・報告式の貸借対照表と損益計算書の作成方法について学習します。</li> <li>・財務諸表分析の意味を理解し、財務指標を組み合わせることで総合的に分析し、会計情報の効果的な活用について学習します。</li> </ul>
3 学 期	発展的な内容 連結会計	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連結財務諸表の意味と必要性を理解し、親会社と子会社の意味と連結の範囲を学習します。</li> </ul>

### 評価の観点と方法

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評 価 規 準	財務会計について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	企業会計に関する法規と基準及び会計処理の方法の妥当性と課題を見だし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応するとともに、会計的側面から企業を分析する力を身に付けている。	会計責任を果たす力の向上を目指して自ら学び、適切な会計情報の提供と効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組んでいる。
評 価 方 法	定期考査、課題プリント、小テスト	定期考査、小テスト、パフォーマンス評価	行動の観察、パフォーマンス評価

(備考) 1 1、2学期の定期考査は、中間・期末に行う。3学期は、学年末考査のみとす  
 2 中間考査の評価は、考査の素点とする。

## 令和5年度 シラバス

教科	商業	科目	原価計算	学年 学科 類型	2年 商業科 I型
単位数	4	教科書	原価計算（東京法令出版）		
副教材等	全商1級原価計算 完全段階式標準検定簿記問題集（東京法令出版）				

学習の目標	1 製造業における原価計算と工業簿記に関する知識と技術を習得し、理解を深めます。 2 原価の概念に対する理解を深め、原価から得られる情報を活用する能力と態度を育てます。
学習の方法	・学習内容が「簿記」よりもさらに高度になるため、教科書を活用し予習と復習を丁寧に行ってください。 ・問題演習については、間違えたところを何回も復習して確実に解けるようにしてください。 ・授業の際には、教科書・問題集・ノート・電卓の準備を忘れないようにしてください。 ・不明な点は積極的に質問して、「原価計算」に対する理解を深めるように努めてください。

学期	単 元	学習活動とねらい
1 学期	第Ⅰ編 原価と原価計算	・原価の概念、原価計算の目的、製造業における簿記の特色と仕組みを学習し、原価計算の概要について理解を深めます。
	第Ⅱ編 原価の費目別計算	・材料費、労務費及び経費の計算と記帳を学習し、原価の費目別計算を行うための基礎的な知識と技術を習得します。
	第Ⅲ編 原価の部門別計算と製品別計算	・個別原価計算、部門別個別原価計算、総合原価計算を学習し、原価の部門別計算と製品別計算を行うための基礎的な知識と技術を習得します。
2 学期	第Ⅳ編 製品の完成・販売と決算	・製品の完成・販売と本社・工場間の取引の記帳方法及び製造業の決算を学習し、製品の完成・販売に関する会計処理と決算を行うための基礎的な技術を習得します。
	第Ⅴ編 標準原価計算	・標準原価計算の目的と手続、原価差異の原因分析及び損益計算書の作成を学習し、標準原価計算を行うための基礎的な知識と技術を習得します。
3 学期	発展学習	・より発展的な学習として、日商簿記検定2級「工業簿記」レベルの問題を学習し、検定の合格を目指します。

### 評価の観点と方法

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評 価 規 準	原価計算の記帳に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	原価計算に関する会計処理及び原価情報を活用する方法の妥協性と課題を見だし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応する力を身に付けている。	原価計算について関心を持ち、自分から進んでまとめたり、問題演習に取り組もうとする。また、疑問点については粘り強く調べたり、積極的に質問するなど、意欲的に取り組んでいる。
評 価 方 法	課題プリント、ノート、小テスト、問題集、定期考査	行動の観察、課題プリント、ノート、小テスト、問題集、定期考査、パフォーマンス評価	行動の観察、課題プリント、ノート、小テスト、問題集、定期考査

- (備考) 1 1、2学期の定期考査は、中間・期末に行う。3学期は、学年末考査のみとする。  
 2 中間考査の評価は、考査の素点とする。

## 令和5年度 シラバス

教科	商業	科目	ソフトウェア活用	学年 学科 類型	2年 商業科 I型
単位数	3	教科書	ソフトウェア活用（実教出版）		
副教材等	全商情報処置検定模擬試験問題集ビジネス情報2級				

学習の目標	1 企業活動におけるソフトウェアの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにします。 2 企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養います。 3 企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動におけるソフトウェアの活用主体的かつ協働的に取り組む態度を養います。
学習の方法	・この科目では、「情報処理」で学習した知識・技術を基にして、情報通信ネットワークを理解し、表計算ソフトウェアやデータベースソフトウェアを活用する能力を養います。情報通信関連の用語を十分に理解し、パソコンによる実習に積極的に取り組んでください。 ・全商情報処置検定（ビジネス情報部門）や全商ビジネス文書実務検定の資格取得を目指して授業を行うため、問題演習を通してパソコン操作技能の向上に努めてください。

学期	単 元	学習活動とねらい
1 学期	第1章 企業活動とソフトウェアの活用 第1節 ビジネスにおけるソフトウェアの活用 第2節 ビジネスにおけるソフトウェアの進化  第2章 情報通信ネットワークの活用 第1節 情報通信ネットワークの導入と運用 第2節 情報資産の保護	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代のビジネスの実例を通して、これらのビジネスにおけるICT活用の基礎知識を学習します。</li> <li>・ネットワークの構築についての基礎知識から、構築に必要なネットワークの設定方法、サーバの管理やセキュリティ管理などについて学習します。</li> </ul>
2 学期	第3章 表計算ソフトウェアの活用 第1節 表計算ソフトウェアを用いた情報の集計と分析 第2節 表計算ソフトウェアを用いたオペレーション・リサーチ 第3節 手続きの自動化  第4章 データベースソフトウェアの活用 第1節 ビジネスとデータベース 第2節 データベースの作成と操作 第3節 手続きの自動化 第4節 データベースの構造 第5節 SQLの操作	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表計算ソフトウェアを活用し、さまざまな場面で収集された情報の集計や分析方法を理解し、ビジネス活動に活用できる知識と技術について学習します。</li> <li>・身近なテーマをもとに、データベースソフトウェアを活用して、データベースの検索機能やデータベースを操作するためのSQL言語を学習します。</li> </ul>
3 学期	第5章 業務処理用ソフトウェアの活用 第1節 グループウェアの活用 第2節 販売管理ソフトウェアの活用 第3節 給与計算ソフトウェアの活用  第6章 情報システムの開発 第1節 システム開発の基礎 第2節 アルゴリズムの基礎 第3節 情報システムの開発演習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々状況が変化するビジネスにおいて、情報をつねに正確で最新な状態に保つように管理することや、企業で働く関係者がその情報を共有し、同じ情報にもとづいた判断や行動ができるような情報の一元管理や情報共有の重要性を学びます。</li> <li>・企業活動の改善に対する要求などにもとづき、組織の一員としての役割をはたすことができるように、自ら業務の課題をとらえ、適切な情報システムの開発ができる方法について学習します。</li> </ul>

### 評価の観点と方法

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価 規 準	企業活動におけるソフトウェアの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決している。	企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動におけるソフトウェアの活用主体的かつ協働的に取り組んでいる。
評 価 方 法	課題プリント、実技、パフォーマンス評価、定期考査	行動の観察、小テスト、パフォーマンス評価、定期考査	行動の観察、実習、課題プリント

(備考) 1 1、2学期の定期考査は、中間・期末に行う。3学期は、学年末考査のみとする。  
 2 中間考査の評価は、考査の素点とする。

## 令和5年度 シラバス

教科	商 業	科目	ソフトウェア活用	学年 学科 類型	2年 情報ビジネス科 I 型
単位数	4	教科書	ソフトウェア活用（実教出版）		
副教材等	全商情報処置検定模擬試験問題集ビジネス情報2級				

学習の目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 企業活動におけるソフトウェアの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにします。</li> <li>2 企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養います。</li> <li>3 企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動におけるソフトウェアの活用主体的かつ協働的に取り組む態度を養います。</li> </ol>
学習の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この科目では、「情報処理」で学習した知識・技術を基にして、情報通信ネットワークを理解し、表計算ソフトウェアやデータベースソフトウェアを活用する能力を養います。情報通信関連の用語を十分に理解し、パソコンによる実習に積極的に取り組んでください。</li> <li>・全商情報処置検定（ビジネス情報部門）や全商ビジネス文書実務検定の資格取得を目指して授業を行うため、問題演習を通してパソコン操作技能の向上に努めてください。</li> </ul>

学期	単 元	学習活動とねらい
1 学期	第1章 企業活動とソフトウェアの活用 第1節 ビジネスにおけるソフトウェアの活用 第2節 ビジネスにおけるソフトウェアの進化  第2章 情報通信ネットワークの活用 第1節 情報通信ネットワークの導入と運用 第2節 情報資産の保護	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代のビジネスの実例を通して、これらのビジネスにおけるICT活用の基礎知識を学習します。</li> <li>・ネットワークの構築についての基礎知識から、構築に必要なネットワークの設定方法、サーバの管理やセキュリティ管理などについて学習します。</li> </ul>
2 学期	第3章 表計算ソフトウェアの活用 第1節 表計算ソフトウェアを用いた情報の集計と分析 第2節 表計算ソフトウェアを用いたオペレーション・リサーチ 第3節 手続きの自動化  第4章 データベースソフトウェアの活用 第1節 ビジネスとデータベース 第2節 データベースの作成と操作 第3節 手続きの自動化 第4節 データベースの構造 第5節 SQLの操作	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表計算ソフトウェアを活用し、さまざまな場面で収集された情報の集計や分析方法を理解し、ビジネス活動に活用できる知識と技術について学習します。</li> <li>・身近なテーマをもとに、データベースソフトウェアを活用して、データベースの検索機能やデータベースを操作するためのSQL言語を学習します。</li> </ul>
3 学期	第5章 業務処理用ソフトウェアの活用 第1節 グループウェアの活用 第2節 販売管理ソフトウェアの活用 第3節 給与計算ソフトウェアの活用  第6章 情報システムの開発 第1節 システム開発の基礎 第2節 アルゴリズムの基礎 第3節 情報システムの開発演習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々状況が変化するビジネスにおいて、情報をつねに正確で最新の状態に保つように管理することや、企業で働く関係者がその情報を共有し、同じ情報にもとづいた判断や行動ができるような情報の一元管理や情報共有の重要性を学びます。</li> <li>・企業活動の改善に対する要求などにもとづき、組織の一員としての役割をはたすことができるように、自ら業務の課題をとらえ、適切な情報システムの開発ができる方法について学習します。</li> </ul>

### 評価の観点と方法

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価 規 準	企業活動におけるソフトウェアの活用について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	企業活動におけるソフトウェアの活用に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決している。	企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動におけるソフトウェアの活用主体的かつ協働的に取り組んでいる。
評価 方 法	課題プリント、実技、パフォーマンス評価、定期考査	行動の観察、小テスト、パフォーマンス評価、定期考査	行動の観察、実習、課題プリント

(備考) 1 1、2学期の定期考査は、中間・期末に行う。3学期は、学年末考査のみとする。  
 2 中間考査の評価は、考査の素点とする。

## 令和5年度 シラバス

教科	商 業	科目	プログラミング	学年 学科 類型	2年 情報ビジネス科 I型
単位数	4	教科書	プログラミング～マクロ言語～（実教出版）		
副教材等	全商情報処理検定試験プログラミング部門1・2級対応アルゴリズム入門（とうほう）				

学習の目標	1 商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、企業活動に有用なプログラムと情報システムの開発に必要な資質・能力を養います。
学習の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マクロ言語によるプログラミングの実習を通して、コンピュータのしくみやセキュリティの要点などの基本的な知識を学習しながら、プログラムを開発したり、データ処理の技能を身に付けていきます。</li> <li>・全商情報処理検定1級合格を目指し、実習や演習問題に取り組みながら理解力を深めていきます。長期休業中の課題等で、模擬問題を解いて実践力を身に付けていきます。</li> </ul>

学期	単 元	学習活動とねらい
1 学期	第1章 情報システムとプログラミング 第2章 アルゴリズム 第3章 プログラムと情報システムの開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会の基盤を構成するシステムを構築するプログラミングの流れについて、基礎的な知識を学習します。</li> <li>・アルゴリズムの表現技法、データ構造、制御構造などアルゴリズムに関する知識、技術などを学習します。</li> <li>・システム開発手法の各種モデルやプロジェクトの管理、開発したシステムの評価などシステム開発の手順について学習します。</li> </ul>
2 学期	第3章 プログラムと情報システムの開発 第4章 情報システムの開発演習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表計算ソフトウェアのマクロ機能を利用して、企業の活動をどのように合理化し改善できるか、簡易的なシステムを作成する実習を通して学習します。</li> <li>・情報システムの開発の手法と手順について学習します。また、企業の業務改善に役立つプログラムを学習し、情報システムの開発の技術を身に付けていきます。</li> </ul>
3 学期	第5章 ハードウェアとソフトウェア 総合演習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハードウェアとソフトウェアに関する知識、技術を学習します。また、情報システムを開発する上でのハードウェアの機能とソフトウェアの効果的な活用についても学習します。</li> <li>・これまで学習した知識について実習と演習を繰り返し行うことで、確実なものにしていくようにします。</li> </ul>

### 評価の観点と方法

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価 規 準	プログラムと情報システムの開発について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けようとしている。	企業活動に有用なプログラムと情報システムの開発に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。	企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動に有用なプログラムと情報システムの開発に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
評価 方 法	定期考査、課題プリント、小テスト	定期考査、課題プリント、小テスト、ポートフォリオ評価	課題プリント、行動の観察、パフォーマンス評価

- (備考) 1 1、2学期の定期考査は、中間・期末に行う。3学期は、学年末考査のみとする。  
 2 中間考査の評価は、考査の素点とする。